1 Shor's algorithm

1.1 アルゴリズムの目標

 $M\in\mathbb{Z}_{>0}$ に対して, 次の 2 つの条件を満たす函数 $f:\mathbb{N}\to\{0,M-1\}$ を考える. 【条件】

- 1. 周期 $\exists ! r$ (i.e) for $\forall x \in \mathbb{N}, f(x+r) = f(x)$
- 2. $f(0), \dots, f(r-1)$ are all distinct.

1.2 アルゴリズムの戦略

ここで述べる Shor のアルゴリズムは, IQFT を用いない確率的なアルゴリズムである. まず, 記号の準備をする.

for
$$a \in \mathbb{N}$$
, $f_a : \mathbb{N} \to \{0, \dots, M-1\}$
 $x \mapsto a^x \mod M.$ (1)

Step1. M(n bit) の整数, $a \in \{1, M-1\}$ を $\gcd(a, M) = 1$ を満たす整数とする. さらに Q を

$$M^2 \le Q = 2^{\ell} \le 2 \cdot M^2 \tag{2}$$

を満たす最小の2べきの数とする.

Step 2. 等重の並列状態にする. $\frac{1}{\sqrt{Q}}\sum_{x}^{Q-1}|x\rangle$

Step 3. Quantum part (後述) return $\sum_{x} \alpha_x |x\rangle |k\rangle$

Step 4. 第一レジスタを観測する.

Step 5. 周期 r を Step 4. で得た数値から推定する. もし Step 4 での数値が "good number" なら, r を推測できる. そうでなければ, 再度 Step 3 に戻る.

2 Good Number

定義 1. $x \in \{0, \cdots, Q-1\}$ が "Good number "であるとは、

$$\exists (t,r):$$
 互いに素 $(s.t)$ $t \cdot Q - x \cdot r = k$ where $-r/2 \le k \le r/2$ (3)

例として, Q=256

$$t = 1.0, r = 4, x = 64, k = 0$$

$$t = 3.0, r = 4, x = 192, k = 0$$

定理 2. x が Good number の時、連分数展開によって、周期 r が一意的に定まる.

証明. Good number の定義から,

$$\left|\frac{x}{Q} - \frac{t}{r}\right| \le \frac{1}{2Q} \le \frac{1}{M^2} \le \frac{1}{r^2} \tag{4}$$

連分数展開について次の定理がある.

定理 3. $\frac{P}{Q}$ を $\|\frac{P}{Q}-x\|<\frac{1}{2Q^2}$ を満たす任意の有理数とする時、 $\frac{P}{Q}$ は x の近似分数である。さらに、その近似分数は P,Q の最大公約数は 1 である.

補題 4. There are $\Omega\left(\frac{r}{\log\log r}\right)$ good numbers.

3 Quantum part of the Algorithm

ここでは、Step 3, 4 について述べる.

Quantum-Step 1. 次の量子重ね合わせ状態を構成する.

$$\frac{1}{\sqrt{Q}} \sum_{x=0}^{Q-1} |x\rangle \otimes |f_a(x)\rangle \tag{5}$$

Quantum-Step 2. 離散フーリエ変換

$$\mathcal{F}_{Q}: \mathbb{C}^{Q} \to \mathbb{C}^{Q}$$

$$|x\rangle \mapsto \frac{1}{\sqrt{Q}} \sum_{k=0}^{Q-1} \exp\left(2\pi i \frac{x \cdot k}{Q}\right) |k\rangle$$

を第一レジスタに作用させる. この時, 量子状態を

$$\sum_{(xy),x\in\{0,Q-1\}} b(xy)|x\rangle \otimes |y\rangle \tag{6}$$

とする.

Quatnum-Step 3. 第一レジスタを観測する.

3.1 Analysis

補題 5. Quantum-Step2 について, b(xy) は, $f(x_0)=y, T=1+\lfloor \frac{Q-x_0}{r} \rfloor$ とした時,

$$b(xy) = \omega^{x_0 + (T-1)r} \frac{1}{Q} \left(\frac{\sin(T \cdot \pi x r/Q)}{\sin(\pi x r/Q)} \right)$$
 (7)

証明。

(7) について, x が Good number (3), i.e. tQ - xr = k の時,

$$b(xy) = \omega^{x_0 + (T-1)r} \frac{1}{Q} \left(\frac{\sin(T \cdot \pi x r/Q)}{\sin(\pi x r/Q)} \right)$$
$$= \omega^{x_0 + (T-1)r} \frac{1}{Q} \left(\frac{\sin(T \cdot \pi \frac{tQ - xr}{Q})}{\sin(\pi \frac{tQ - xr}{Q})} \right)$$

T の定義から

$$T \le 1 + \frac{Q}{r} \tag{8}$$

xが Good number であることから,

$$-\frac{r}{2Q} \le \frac{tQ - xr}{Q} = \frac{k}{Q} \le \frac{r}{2Q} \tag{9}$$

(8),(9)から

$$T \cdot \frac{tQ - xr}{Q} \le \frac{1}{2} + \frac{r}{2Q} \tag{10}$$

(2) から,

$$\frac{Q}{r} > \frac{M^2}{r} > M \tag{11}$$

であることを思い出しておく. 先ほどの (10) から

$$\pi \cdot T \cdot \frac{tQ - xr}{Q} \le \pi \left(\frac{1}{2} + \frac{r}{2Q}\right) \le \pi \left(\frac{1}{2} + \frac{1}{2M}\right) \tag{12}$$

ここで,

$$\alpha := \frac{tQ - xr}{Q}.\tag{13}$$

と置いたとき, (12) は

$$T \cdot \alpha \le \pi \left(\frac{1}{2} + \frac{1}{2M}\right) \tag{14}$$

となることがわかり、よって

$$||b(xy)||^2 = \left\| \frac{1}{Q} \left(\frac{\sin(T \cdot \alpha)}{\sin \alpha} \right) \right\|^2$$
 (15)

$$\geq \frac{T^2}{Q^2} \left(\frac{\sin(T \cdot \alpha)}{T\alpha} \right)^2 \tag{16}$$

 $\frac{\sin(x)}{x}$ を、 微分した時の分子は、 $\cos x \cdot (x - \tan x)$ となるため $0 \le x \le \frac{\pi}{2}$ で単調減少する.

4 考察

Good number は以下の通り. (M=15, a=2 の時) 参考: r=4

Case 1:Q=2 の時

Case 2:Q=4 の時

t = 1.0, x = 1, k = 0

なので $\frac{Goodnumber の数}{Q} = \frac{1}{4}$

一方で、Shor のアルゴリズムによると、x=1 が出力される確率は (7) より $\frac{1}{4}$ とわかる.

Case 3:Q=8 の時

t = 1.0, x = 2, k = 0;

t = 3.0, x = 6, k = 0;

 $rac{Goodnumber \; o \otimes}{Q} = rac{1}{4} \;$ である一方で、理論値では $rac{3}{16}$

Case 4:Q=16 の時

t = 1.0, x = 4, k = 0

t = 3.0, x = 12, k = 0

 $rac{Goodnumber \, o \, \mathbb{X}}{Q} = rac{1}{8} \, ext{である一方で、理論値では} \, rac{1}{8}$

Case 5: Q = 32 の時

t = 1.0, x = 8, k = 0

t = 3.0, x = 24, k = 0

5 考えたいこと

サンプリングごとにQを変えていって search する.

6 RSA 暗号と素因数分解問題について

p,q を素数として $M=p\cdot q$. この時,

$$(M/M\mathbb{Z})^* \simeq (M/p\mathbb{Z})^* \times (M/q\mathbb{Z})^*. \tag{17}$$

今, $e \in (M/M\mathbb{Z})^*$ に対して, $\exists e' \in (M/M\mathbb{Z})^*$ s.t $e \cdot e' = 1 \mod (p-1) \cdot (q-1)$. ここで, e が公開情報, e' が秘密情報となる.

【暗号化】

メッセージmに対して m^e で暗号化する.

復号は, $e \cdot e' = \exists \ k \cdot (p-1) \cdot (q-1) + 1$ だから, $(m^e)^{e'} = m^{e \cdot e'} = m^{k \cdot (p-1) \cdot (q-1) + 1} = m$ となる.

